Geelong Days 2020

干潟でつながる 人・自然・未来

発 行／名古屋市環境局

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号　伏見ライフプラザ13階
TEL 052-223-1066　FAX 052-223-4199

発行年月／令和２年10月

Geelong Days 2020

干潟でつながる 人・自然・未来

PEOPLE, NATURE AND FUTURE LINKED BY TIDAL FLAT



令和2年度 オーストラリア・ジロング市との湿地提携に基づく人的交流事業報告書

名古屋とジロングとのつながり

北半球と南半球を行き来する渡り鳥にとって、湿地はえさの確保や休息のための大切な場所です。名古屋市にある藤前干潟は、まさに渡り鳥たちのオアシス。栄養補給や羽休みにうってつけの中継地なのです。藤前干潟で休息した鳥たちの次なる目的地のひとつがオーストラリア南東部にあるジロング市の湿地。毎年6万羽もの渡り鳥が飛来するそうです。

国境を越えて移動をする渡り鳥の飛来地となる湿地を保全するため、平成19年5月22日に名古屋市はジロング市と湿地提携を締結しました。両市は協力して、湿地の保全と活用に向けて取り組んでいます。

その取り組みのひとつが人的交流。名古屋市の中学生たちは2年に1度、ジロング市を訪問し、現地の環境保全の取り組みを学んでいます。



WHAT'S GEELONG

ジロングってこんな町

ジロング市はオーストラリア・ビクトリア洲にある人口約26万人の町です。豊かな自然環境に恵まれ、別荘地や観光スポットが数多く整備されています。

新型コロナウイルスの影響がここにも…



名古屋市の中学生がジロング市を訪問する交流事業は、平成19年度から6度にわたって実施されてきました。これまでに派遣された中学生は100人以上。湿地の環境保全に取り組む様子を学んだり、野生動物の保護施設を見学したり、現地の人々と交流会を行ったりするなど、日本ではできない貴重な経験を重ねています。

令和2年3月には7度目となる派遣が予定されていました。参加する18人の中学生たちは、ジロング市での環境施設訪問や現地の人々との交流を楽しみにしていたのですが…。

新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行。日本はもちろんオーストラリアでも感染者が増加していたため、感染拡大防止の観点から、今回のジロング市への派遣は見送ることになりました。その代わり、名古屋で代替の学習会を開くことになったのです。

代替学習会では、ジロング市の子どもたちとインターネットを通じて交流を深めるなどの取り組みが行われました。残念ながら現地に行くことはできませんでしたが、彼らにとって多くのことを学ぶ機会となったようです。

この報告書は、中学生たちが代替学習会などで学んだ成果を、より多くの人に知ってもらうため、中学生が自らの手でまとめたものです。彼らの成長の証しともいえる本報告書が、多くの人の目に触れ、さらなる環境活動の促進につながることを切に願っています。

Personal Report

学びを終えて

今回の事業に参加した18人の中学生がそれぞれまとめた個人レポートを紹介します。





神丘中学校　**泉 陽斗**

僕が学んだのは藤前干潟の大切さです。ここは生き物の大切な生息地であり、これからもこの状態を維持していくことをみんなで認識しあいたいです。ジロングには行けませんでしたが、干潟について学ぶいい機会になりました。



本城中学校　**稲熊玲那**

オーストラリアに行けなかったのは残念ですが、オーストラリアの環境への意識の高さがビデオでの交流や資料で分かりました。今回の学習会であらためて環境への気配りをしていかなければならないと深く考えさせられました。

環境のこと、全部知る

交流事業の目的のひとつが、「自ら環境保全活動に取り組むことのできる人材の育成」です。令和元年12月から同2年2月にかけて計3回開催された事前学習会では、名古屋市の職員らが講師となり、ごみ・自然環境・生物多様性・リサイクルなど環境にまつわるさまざまな問題点や名古屋市の取り組みについてのレクチャーが行われました。参加した中学生たちの表情は真剣そのもの。講師たちの話に熱心に耳を傾けていました。

「これまで遠い世界の話だと思っていた環境問題が身近に感じられた」

「私たちの住む名古屋に守るべき自然環境の宝庫があることを初めて知った」

事前学習会を終えた中学生たちからは、こんな声が聞かれました。環境のことについて考えるよい機会となったようです。そう遠くない将来、彼らの中から環境問題に率先して取り組むリーダーが出て来てくれるのではないか…。

そんな期待を抱かせる、内容の濃い学習会となりました。

第1回 事前学習会

令和元年 **12月15日(日)**

- 場所：稲永ビジターセンター
- 内容：藤前干潟の学習、野鳥観察など

第２回 事前学習会

令和２年 **1月19日(日)**

- 場所：名古屋市環境学習センター
- 内容：生物多様性の学習、ごみの学習など

第３回 事前学習会

令和２年 **2月9日(日)**

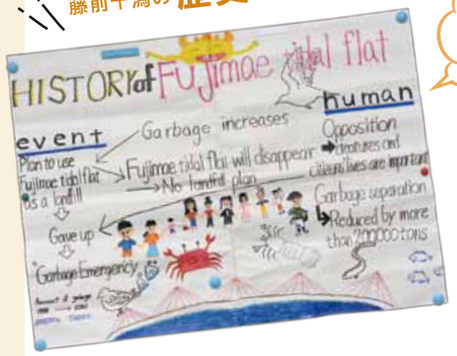
- 場所：ソレイユプラザ　研修室
- 内容：発表原稿作成、リサイクルワークショップなど



完成！ 藤前干潟紹介用ポスター

事前学習会開催のもうひとつの目的が、ジロングの人々にプレゼンテーションをするためのポスター作り。18人を3つの班にわけ、それぞれ「藤前干潟の歴史」「藤前干潟の鳥」「藤前干潟の生態系」をテーマとした、分かりやすい図やイラスト入りの手作りポスターを完成させました。

藤前干潟の**歴史**を紹介



藤前干潟を守るために、ごみ減量を行った名古屋市民の取り組みを紹介しました



藤前干潟の**鳥**を紹介



藤前干潟の**生態系**を紹介



食物連鎖のことなど、藤前干潟の生態系について分かりやすく取り上げました

藤前干潟にどんな渡り鳥がやって来るのか、特徴をイラストで説明しました







神沢中学校　今田祐綺

ジロングに実際に行くことはできませんでしたが、インターネットで現地の人と交流することができました。藤前干潟の大切さや魅力について伝えることができてよかったです。自分にとってとてもよい経験になりました。



長良中学校　大橋海里

僕が学習会を通じて学んだのは「人と藤前干潟とのつながり」です。中でも、藤前干潟のごみ埋め立て地化の計画を市民の反対によってなくしたというエピソードに驚きました。環境保護は人がいて成り立つのだと思います。



金城学院中学校　大和田美優

以前から環境について興味がありました。学習会では今まで考えもしなかったことを考えたり、話し合ったりして深い学びを得ることができました。オーストラリアに行くことはできなかったけど、とても貴重な経験になりました。



振甫中学校　小川ジョイ

干潟の学習を通じて、自然と人間の関係性を深く考えることができました。両者が互いに助け合い、共存する世界を創る一員として、これからも「環境」について探求していきたいと思います。



第1回 代替学習会



令和２年 **8月1日㊏**

- 場所：ソレイユプラザ　研修室
- 内容：グループワークなど

ジロングからの手紙

ジロングへの派遣中止が決まったことを受け、行われることになった代替学習会。中学生たちは悔しさを滲ませつつも、元気な笑顔を見せてくれました。

学校のこと、干潟のこと、好きなキャラクターのこと…。この日はジロング市にあるクイーンズクリフ小学校の児童たちから送られてきた手紙に目を通し、返事を書きました。



▶手紙のやり取りなど滅多にできない交流だったので、いつもより新鮮でした。
▶向こうは小学生、こちらは中学生と年齢差がありましたが、同じ目線に立って手紙を読むことができました。



オーストラリアから届いた手紙の返事を書きました。自分の趣味やジロングに関する質問、ジロングに対するイメージなどを書きました。

手紙を読んだ私たちと同じように、クイーンズクリフ小学校のみんなも喜んでくれるとうれしいな。



クイーンズクリフ小学校の子供たちの手紙には、家族のことや自分の趣味のことなどが書いてありました。

また、私たちにも分かるようにと、日本のアニメキャラクターや日本語で歓迎を意味する言葉を一生懸命書いてくれていたので、読んでいてとてもうれしかったです。





千種中学校　岸 香歩

今回の交流事業はコロナウイルスによって中止されてしまいましたが、学習会を通して、干潟の大切さを学ぶことができました。また、インターネットでの交流では発表や質問もできて、とてもよい勉強になりました。



鳴子台中学校　工藤竜誠

僕はこれまでの学習会を通し、干潟の役割などを詳しく知ることができてよかったと思います。新型コロナの影響で実際に行くことはできませんでしたが、ジロングの人たちと交流できたことはとてもよい経験になりました。



牧の池中学校　佐藤秀磨

今回の学習を通して気付いたことは、これ以上動物が生活する場所を壊してはいけないということです。藤前干潟で渡り鳥や魚たちが暮らしている所を実際に見て、このような環境を守ることが大切だとあらためて思いました。



丸の内中学校　寺澤奏音

学習会を通して、多くの自然と触れ合うことができました。特に、実際に藤前干潟に入ったこと、ジロングの方々とインターネットで交流できたことが印象に残っています。自然に対する自分の考えをさらに深めたいと思いました。



第２回 代替学習会



令和２年 **8月6日(木)**

- 場所：藤前活動センター
- 内容：藤前干潟体験など

藤前干潟の過去と今

藤前干潟とは‥



藤前干潟は名古屋港にある面積323ヘクタールの広大な干潟です。ここはまさに大都会のすぐそばにある自然の宝庫。カニやゴカイなどの底生生物が174種もいると言われています。

豊富なエサを求めて毎年多くの渡り鳥たちが飛来し、羽を休める大切な場所でもあります。

藤前干潟の歴史

昭和59年

名古屋市が藤前干潟を埋め立ててごみの最終処分場を建設する計画を発表

平成３年

名古屋市民10万人の署名と中止請願書が名古屋市議会に提出される

平成11年

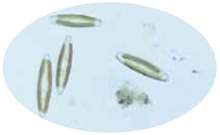
名古屋市が藤前干潟の埋め立て計画を断念。
同年「ごみ非常事態宣言」を宣言し、徹底したごみの分別とリサイクルの取り組みが行われ、大幅なごみの減量に成功

平成14年

特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）に藤前干潟が登録される

藤前干潟 生き物図鑑

ケイソウ



干潟の中でとてもたくさんの数が生育し、食物連鎖の土台となっている。食物連鎖のすべてはこの生き物から始まっていると言っても過言ではない。

アナジャコ



干潟に深い巣穴を掘り、口部に密生するひげでプランクトンなどをこして食べる甲殻類。巣穴の長さは1メートルほど。長いものになると4メートル近くになるものもある。

ゴカイ



魚釣りのエサとしてよく利用される生き物の一種。体長は10センチほど。ミミズのように細長く、体に節が100個ほどある。砂泥の中に含まれる有機物を栄養としている。

ウロハゼ



砂泥底を好むハゼの仲間。体長は20センチほど。肉食性で甲殻類や小魚などを食べる。藤前干潟ではあまり見掛けることのないレアな魚。ウナギ筒の中から捕まえることができた。

ヤマトシジミ



川の水と海の水が入り交じる汽水域の砂礫底で見られるシジミ科の二枚貝。干潮時に水が引く干潟でも棲息している。藤前干潟体験では、多くのヤマトシジミを発見した。



津賀田中学校　**永谷玲子**

藤前干潟に入ったり、鳥を観察したりしているうちに、名古屋は環境保護において大切な場所がたくさんあることに気付きました。オーストラリアに行けなかったのは残念だけど、身近な自然を守ろうという思いが強くなりました。



東海中学校　**成戸杜和**

ジロングには行けませんでしたが、代わりに藤前干潟の自然を感じられて、そのありがたさ、大切さを感じました。干潟は多くの生き物の住処、休息地としてとても重要な役割を持っているので、守らなければならないと思います。



城山中学校　**畑 恵梨花**

オーストラリアに興味を持ちました。オーストラリアは小学生でも環境に対する意識が高いことを知り、自分も環境について考えなければならないと思いました。他国の人とつながることができ、英語の楽しさも分かりました。



愛知教育大学附属名古屋中学校　**早川千尋**

今回学んだのは交流の方法です。現地には行けなかったものの、例年とは違う手紙やインターネットを通じて交流をしました。「例年と違うから残念」ではなく、「例年と違うからこそ素晴らしい」ということを学びました。



第３回 代替学習会

令和２年 **8月11日（火）**

- 場所：名古屋市環境学習センター
- 内容：ジロングの子供たちとのインターネット交流など



距離と言葉の壁を越えて

代替学習会の総まとめとして、クイーンズクリフ小学校の先生や子供たちとインターネットをつなぎ、交流会を実施。クイーンズクリフ小学校制作のビデオ上映や、事前学習会でまとめたポスターの発表を行いました。緊張気味の参加者も徐々に打ち解けていき、質問タイムでは笑顔も。言葉の壁を越えて名古屋とジロングの距離は確実に縮まったと思います。

ビデオ鑑賞

クイーンズクリフ小学校から
送ってもらったビデオを視聴しました。





これはジロングの子供たちがごみで作った大きな鳥の絵です

環境に対する意識が高いと思った！

ポスター発表

事前学習会で作成した藤前干潟に関するポスターの内容を英語で説明しました。





拙い英語でしたが、なんとか通じてよかったです

緊張してセリフを覚えられなかった

相手に伝えるため大きな声で話しました

質問タイム

名古屋の中学生とジロングの子供たちが
お互いに疑問に思ったことを
自由に質問しあいました。

結構盛り上がって楽しかったです

海苔は好きですか？

はい。子供たちも食べていますよ



日本のキャラクターで好きなものはありますか？

トトロが大好きです！

感 想

最後にそれぞれの感想を発表しました。



オーストラリアに行って、実際に会いたかったです



ジロングの子供たちは自由な感じでした



名古屋国際中学校　平子音々

新型コロナウイルスが原因でオーストラリアに行けなくなりましたが、オーストラリアと日本を繋ぐ藤前干潟を知ることができ、新しい知識が増えました。この知識をSus-Teen!を通じてたくさんの人に発信したいです。



大高中学校　松本大輝

藤前干潟に入って印象に残った生き物はゴカイです。初めて見た時は「なんだこれ、ミミズじゃん！」と思いましたが、よく見るとミミズとは違っていました。元気に泳ぐ姿から生命力を感じました。



汐路中学校　山中沙羅

新型コロナウイルスのせいで現地に行って発表や交流はできなかったけれど、インターネットを使って発表ができてよかったです。今回のジロングとの交流活動は例年とは違ったので、貴重な経験ができたなと思いました。



豊国中学校　渡辺ひかり

3回の学習会を通じて、同年代やいろいろなアプローチで環境に携わる人々との交流で、考えを深めることができました。今後もイベントに参加して、新しい発見をしていきたいと思うようになりました。